

令和2年度 第3回 大阪府立島本高等学校 学校運営協議会 議事録

○委員構成（敬称略）

柘植 誠子（短期大学准教授）、花田 純子（地元民生委員児童委員協議会委員）

飯島 知明（地元中学校教頭）、三上 裕貴（地元中学校首席）

織 晃久（本校同窓会副会長）大草 珠子（本校PTA会長）

伊藤 義孝（本校校長）、杉田 真規子（本校教頭）、美濃 秀政（本校教頭）

瀧澤 昭友（本校事務長）、佐々木 哉司（本校首席）、札木 理（本校首席）

○日時：令和3年1月22日（金）14：00～16：30

○場所：会議室

○内容：14：00～14：20 議案について

14：45～15：15 6限目 授業見学

15：15～16：30 議案について（協議）

○出席者（敬称略）

柘植 誠子、花田 純子、飯島 知明、三上 裕樹、伊藤 義孝、杉田 真規子、美濃 秀政、

瀧澤 昭友、佐々木 哉司、札木 理、齊藤 伸二、西生 尚史（記録）、芳賀 一輝（記録）

1. 会長挨拶

2. 校長挨拶

3. 議案

（1）授業見学について

【ご意見等】

- ・ノートをしっかりとしている生徒が多いが、一部の生徒は学びに向かう姿勢ができていなかった。
- ・授業内容が分かっていない生徒は授業への発言が少なかった。
- ・内容が分からないから、授業への興味を持たなくなりノートも取らないようになっているので、興味を持ってもらえるような授業の工夫がほしい。
- ・友達への教え合いは主体的に取り組めているので良いと感じた。
- ・生徒間で教え合える良い雰囲気を教員全体で作っていくことで主体的・対話的で深い学びを実現していくべき。
- ・難しい授業内容だと生徒が感じている場面があった。
- ・生徒が授業に向かうような姿勢が見られない場面があったことは課題だと思った。
- ・授業中にわからないことを発言できる機会があれば良かった。
- ・中高の連携がスムーズにいくように、この光景を持って帰りたい。

【質問（高校より）】中学校では主体的・対話的で深い学びをするためにどのような工夫をしているのか。

【回答（中学校より）】新型コロナウイルスの影響で対話的な学びが難しい状況ではある。そのため、生

徒自身が書くことによって自己内対話をするという工夫をしている。また、生きた知識を伝えるために授業の導入を大切にしている。

(2) 令和2年度進路の状況について

- ・4年制大学や短期大学については指定校推薦での合格がほとんどである。
- ・就職については就活解禁日が新型コロナウイルスの影響で例年より1ヶ月遅かったため、決定率が8割だが最終的には10割をめざしている。
- ・「キャリアパスポート」を今年度から実施している。進学や就職することがゴールではなくそこで活躍して生きていけるように指導していく。
- ・求人数は昨年の3分の2くらいに落ち込んでいる。昨年度と比べ、公開求人の合格率が低いのは新型コロナウイルスの影響である。そのため、例年より選考の倍率が高くなってしまった。

【ご意見等】

- ・中学校でもキャリア教育は大切だが、今年度は新型コロナウイルスの影響で職業体験ができなかった。何らかの形で補充していきたい。

【質問】 去年に比べて今年の求人は変化あったのか。

【回答】 指定校については去年の2/3ほどしか来なかった。就職では公開求人は多いが、合格率は低い。

【質問（高校より）】 高校に進学したときには中学校からの「キャリアパスポート」は引継ぎするのか。

【回答（中学校より）】 します。

(3) 令和2年度生徒指導状況について

- ・生徒指導の中では遅刻指導を重点的に指導している。懲戒指導にかからないように段階的に指導している。
- ・服装指導では異装している生徒には預かり指導を行い、スカート丈を上げないように指導している。

【ご意見等】

- ・以前に比べると茶髪も減りだいぶ落ち着いている。

【質問】 今年度、遅刻や中抜けの数がなぜ減っているのか。

【回答】 生徒数の減少による影響もあるが、15分以上抜けると欠課になるのでそれまでには戻るように指導している。

(4) 令和2年度学校教育自己診断について

- ・肯定的回答について生徒、保護者ともに毎年2年生が1番低い状況であるが、今年はコロナ禍の状況の中で生徒の肯定的な回答が増えた。
- ・今年の文化祭は芸術祭と併せた形での実施とした。唯一の学校行事が体育祭であったが、体育祭後は休みが多くなる生徒もいた。

【ご意見等】

- ・中学校では「学校に行くのが楽しい」という目標を90%としているが、85%くらいにとどまっている。
- ・中学生のうち部活動の加入率は7~8割ほどである。このうちの8割の生徒が「部活動が楽しい」という声になることをめざしている。

- ・保育実習では子ども理解が大切であるので、オンライン授業の1つとして保育所などに定点カメラを置かせてもらい子どもの様子を見ることによって、子どもが何を考えているかなどを生徒が考えられるような授業をしたらよいのでは。子どもを理解する上で子どもの動きを知る、探ることは重要である。そうすると、もっと興味を持つように思う。

【質問】授業が楽しいという声が少ない。少人数制の授業のほうが楽しいという声になりやすいのでは。担当する教員の定数ということもあるが、少人数制の授業を増やしてみتهいかがだろうか。

【回答】少人数制の授業だから必ずしも楽しいということではない。大事なのは、いかにプロフェッショナルの意識で授業に仕掛けをするかだと思う。

【質問】行事が楽しいという声が多いが、授業ではどうなのか。

【回答】体育祭だけを楽しみにしている生徒がいる。今年は体育祭後の授業日に休む生徒もいたのであまり授業態度が良いとは言えない生徒もいる。ただ、生徒会や部活動に所属している生徒は授業に前向きな生徒が多い。

【質問】部活動の現状は。

【回答】加入率は、3割を切っている。また、新型コロナウイルスの影響でしっかり練習や試合ができていないということで部活動へのモチベーションが下がるという悪循環ができています。また、感染対策もしっかりすることによる競技の楽しさが伝えきれていない。

(5) 令和2年度学校評価(案)について

【ご意見等】

- ・新型コロナウイルスの影響で必要がないかもしれない校則があるのではないかと感じた。中学校では換気をすることで室内の温度が下がるので、室内でのウインドブレーカーの着用を生徒が提案し、会議を繰り返したことによって最終的に実現した。

【質問】授業満足度を70%以上にするにはどのようなことをしているか。

【回答】教師主導の一方通行の授業ではなく、双方向の授業をしていく。例えば、生徒同士で教えあうような授業にする。そうすることによって、お互いに質問などしやすく理解がしやすい。そういった、環境づくりが大切である。そして、タブレット導入で生徒の「わかる」「わからない」が見える化する。

【質問】1学期から2学期にかけて授業の評価が上がっているのはなぜか。

【回答】毎年1学期は新しく来た教員に対して慣れるのに時間がかかる傾向があり、2学期になるにつれて信頼関係ができてくるため評価が上がりやすい。

【質問】オンライン授業が良かったという声があるのはなぜか。

【回答】初めての試みだったので生徒も関心を持つことができた。中学生の高校訪問も同様にオンラインで行うことも視野に入れていきたい。

【質問】なかなか学校のルールにのってこない生徒がいるように思われるが、生徒と保護者が納得するような指導内容にするためにどのような工夫をしているのか。

【回答】人間関係の構築しかない。日々の積み重ねが大事であり、粘り強く生徒と話をしている。

※令和2年度学校評価について [承認]

(6) 令和3年度学校経営計画(案)について

- ・令和5年度までにICTやオンライン授業の充実をしていく。
- ・保育実習では、多様な高大連携の方法を模索するなどして保育専門コースの充実をしていく。
- ・幅広い知識や技能の習得や、教員の資質向上をめざす。
- ・感染症対策への対応を踏まえた指導及び学校体制の確立
- ・人権教育をすることでスマートフォンのトラブルの発生を防ぐことや、高校生の大麻が増えてきているので全学年で薬物乱用防止について学ぶ機会を与える。
- ・教職員のハラスメントや不祥事が起きないように研修などを通じて防止していく。
- ・週2回のノークラブデーなど教員の働き方改革をしていく。
- ・避難訓練を今までよりもさらに実働防止訓練として実施していく。

【質問】家庭での学習をしていない生徒が多いが、そのことについては触れないのか。

【回答】家庭環境によりアルバイトをしている生徒も多い。現状から鑑みて入れていない。

【質問】保育専門コースは増えているのか。

【回答】現在2、3年生は保育専門コースに24名ずついるが、今年度入学した1年生は40名保育コースに希望していたので割合としては増えている。

※令和3年度学校経営計画について [承認]

【会議後送付した文書による意見聴取に対してのご意見】

- ・「ICT環境の整備」について→教職員のスキルアップについては、教職員のスキルの差が大きいと思われるので、初級、中級、上級の3段階で研修を行ってはどうか。
- ・GIGAスクール構想を踏まえた、タブレット学習における利用方法やルールなどを中高で連携し、高めていけると助かる。
- ・保育専門コースは、島本高校において一つの大きな力であると感じる。そのためにも、もっと広めていくことが大切であると思う。
- ・校内美化において見学の際、気になった。生徒会活動も活発としている島本高校でも、その点を動かし取り組んでほしい。
- ・部活動において総合型地域スポーツクラブとの連携など、中学校も含め、様々なことを想定したうえで検討し、新しいものを一緒に創り上げたいと思う。
- ・町で一つの府立高校として、より中高連携を進め、地域一体として子どもの成長を進めていくため今後ともお願いしたい。

(7) その他

- ・文科省通知(令和2年9月)「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」により、令和5年度

から部活動を地域に移行していくことになる。今年度は土日のダンス部の指導として募集したところ
4名の中学生が来た。最終的な目標としては顧問がいなくても指導ができるようにしていく。

(8) 質疑応答及び意見交換

- ・なし